

オープンギャラリー 山の画家 足立源一郎



足立源一郎《北穂高小舎にて》1949年、安曇野山岳美術館

日本の代表的な山岳画家として知られる足立源一郎(1889～1973、大阪生まれ)は、穂高連峰など長野の山々に通いつめ、「現場主義」を徹底し、自ら山頂を目指し高山の空気を全身で感じながら目の前の山岳を描きました。本展では、足立が登山制作で欠かさなかったピッケルやリュックといった登山道具、パレットなどの絵画道具から、画家としての姿とともに本格的な「登山家」でもあった足立の姿を紹介します。



写真「1960 第二尾根P2」1960年、小山義治撮影、安曇野山岳美術館

【展覧会概要】

- [会期] 2024年7月20日(土)～9月24日(火)
※休館日＝水曜日 ※会期中一部展示替えがあります。
- [会場] 長野県立美術館
本館1階交流スペース内 オープンギャラリー
- [開館時間] 9:00～17:00(展示室入場は16:30まで)
- [観覧料] 無料

■足立源一郎 1889(明治22)年-1973(昭和48)年

大阪市生まれ。日本の山岳画の礎を築いた山岳画家。京都市立美術工芸学校に入学、短期間で浅井忠に学び強い影響を受ける。1908(明治41)年に上京、太平洋画会研究所に入り、白馬会研究所や東京美術学校にも通う。1914(大正3)年にフランスへ留学。1922(大正11)年、春陽会の創立に参加し、以降同会に出品し続ける。1936(昭和11)年、吉田博、丸山晚霞らと日本山岳画協会を創立。長野県の北アルプスをはじめ、精力的に日本各地の山々を描いた。中国、台湾、ヨーロッパにも足を運んだ。

【主な展示作品】

- ①足立源一郎《北穂高岳 滝谷側》1957年、河口湖美術館
- ②足立源一郎《穂高小舎》1949年、安曇野山岳美術館
- ③足立源一郎《北穂高小舎にて》1949年、安曇野山岳美術館
- ④写真「1960 第二尾根P2」1960年、小山義治撮影、安曇野山岳美術館
- ⑤写真「5.1960 滝谷第二尾にて 小山義治君撮」1960年、小山義治撮影、安曇野山岳美術館
- ⑥ピッケル(足立源一郎旧蔵)、市立大町山岳博物館
- ⑦スキー・ストック(足立源一郎旧蔵)、市立大町山岳博物館
- ⑧絵具箱(足立源一郎旧蔵)、河口湖美術館



写真「5.1960 滝谷第二尾にて 小山義治君撮」1960年、小山義治撮影、安曇野山岳美術館



絵具箱(足立源一郎旧蔵)、河口湖美術館

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣)

TEL: 026-232-0052 FAX: 026-232-0050 E-mail: nam-pr@naganobunka.or.jp